

なごじょうあと 14 南居城跡

所在地：福井市杉谷町、南居町、冬野町地係

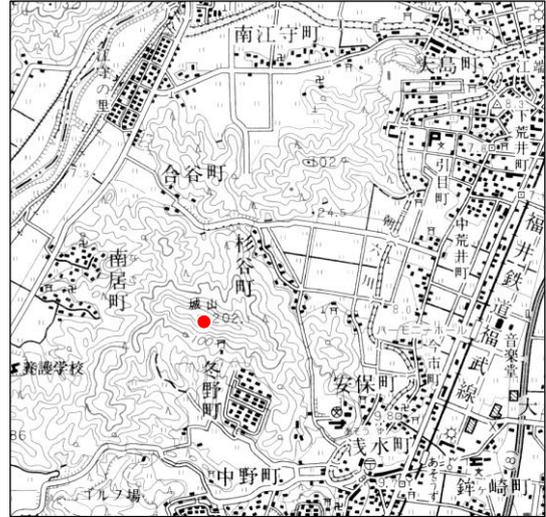
調査原因：緊急調査

調査期間：令和4年8月～10月

調査主体：福井市教育委員会

調査面積：20 m²

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 標高 202.14m の通称“城山”^{じょうやま}に築かれた中世の山城跡です。今回の調査は主郭^{しゅかく}にある、東西 10.7m、南北 7.7m、高さ 1.1m のマウンドで実施しました。マウンドでは拳大から人頭大の角礫^{てつとう}が散乱し、鉄刀片が見つかったことを契機に発掘調査を実施しました。

主な遺構 マウンドは地山を削り出し、盛土により構築しています。平面形は長方形で、東西 9.5m、南北 6.5m、裾部からの高さは 1.1m の規模を測ります。角礫は盛土上に不規則に置かれた状態で、頂部を中心に密集していました。斜面ではマウンドが後世に削られ、転石などありましたが、元はマウンド全面が角礫に覆われていたと考えられます。

主な遺物 主な出土遺物として、攪乱層^{かくらん}や流土^{りゅうど}から鉄刀と石製品などが出土しました。鉄刀は直刀^{ちよくとう}の茎^{なかご}から上^{かみ}身の一部で、13 世紀頃のものと考えられます。石製品は、蓋状のもので、復元長は外径約 33cm と推定されます。その他、表採遺物では、宝篋印塔^{ほうきょういんとう}の一部や越前焼かめ片が多数出土しています。

まとめ 南居城跡は中世の文献にも登場する山城で、城山頂上部のマウンドもそれに関連するものと考えられていました。しかし、マウンドが角礫に覆われていること、出土遺物の越前甕片や石製蓋製品^{きょうつづ}は経筒^{けいとう}を納めた外容器^{がいようき}、鉄刀を副葬品^{きょうつづ}と考えたと経塚^{けいづか}である可能性が高いと推測されます。経塚は、麓^{ふきのし}にあったとされる「踏野寺」との関係性が指摘でき、これまで山城とされてきた南居城の新たな側面をうかがい知ることができる結果となりました。

(白崎 一夫)



写真1 調査地全景



写真2 斜面の様子



写真3 盛土の様子



写真4 出土遺物(石製蓋製品)



写真5 出土遺物(鉄刀)